

## NO. 2326 京都トレイル② 日向大神宮～大文字山～鹿ガ谷～霊鑑寺～法然院

2012年 8月5日(日)

参加者 桜井、高石、中村、片山琴美、山城(L記)

蹴上駅前9:30集合。「やあ～暑いな～あ」が挨拶。まずはそれぞれに熱中症対策にかかる。頭にハンカチきりりと締めて帽子をかぶり、日除け手袋、首にタオルをかけ手にウチワを持つ。「ゆるゆる行きましょか」ここ蹴上は昔『京の七つ口』の一つであった。ねじりマンボを抜けインクラインに向かう、其処は緑いっぱい包まれた公園で心地よい。日向大神宮は外宮・内宮とあり京都のお伊勢さんなのだ。けど境内はひっそりとしている。内宮の横の影向石の傍から登って行く。けがれ祓いの『天の岩戸』もくぐって、道なりに木の根道を辿っていくと㊸『七幅思案処』五叉路である。山頂に向う途中で右に展望場所があり山科方面が眺められた。また20分程行くと左に京の町が平安神宮の朱の鳥居が見える。この尾根道は歩きやすい。着いた大文字山頂も木陰で心地よく眺望もうれしいところ昼食休憩にする。来た道を少し戻り鹿ガ谷分岐を目指す。直進したつもりが長くやがて下り道になって来た?回れ右、来た道に戻る。分析すれば、分岐の30m程手前を主道と思い辿る(後で見ると地図に無い道だがしっかりした山道だった)

㊹を皆で確認しあい歩き易いとは云えない鹿ガ谷道を下るが結構長い。中程に『俊寛僧都忠誠之碑』がある。ザックを下ろし汗をぬぐう『楼門の滝』が冷涼をくれる。ここが俊寛山荘跡で平の清盛全盛時に起きた事件、この山奥の山荘が『鹿ガ谷』の舞台だ。藤原成親がリーダーとなり平家転覆を企てます。俊寛、平康頼、西光法師、多田行綱等が加わり、(のちに後白河法皇が静憲法師(信西の子)を連れ加わっていた)ところが行綱の密告で密謀は暴露し斬首、流刑と処罰されます。俊寛は鹿児島沖の鬼界ヶ島に流されます。以後この谷を談合の谷、談合の滝と呼ばれたそうです。

谷の終点には美しい白壁が続く霊鑑寺(代々皇族の尼門跡)があり、哲学の道に通じます。木陰を選び歩きながら、一番涼しそうな法然院に誘われる様に踏み入ったのが今日の運命か?。ここは昔人の知恵が生きてるな～。樹林で外部の暑さが遮断されて境内には緑の涼風が通り抜ける。座った石段もひんやり～。これから比叡山登るなんて暑過ぎますねえ～今日はここ迄にします。酷暑のなかお付き合い頂き有難うございました。お疲れ様でした。

交 通 (参考) 阪急梅田(8:15)→(9:02)四條烏丸(9:09)-(9:10)烏丸御池→(9:20)蹴上駅